

令和元年度沖縄総合事務局開発建設部コンプライアンス・ アドバイザリー委員会（第1回）の議事概要について

1. 日 時：令和元年11月27日（水） 13時30分～15時30分
2. 場 所：沖縄総合事務局4階 事業審査室
3. 委 員：委員長 照屋 兼一 （弁護士）
 委員 小池 真由美 （公認会計士）
 委員 平敷 卓 （沖縄国際大学講師）
4. 議 事：コンプライアンス推進計画取り組み状況等の報告
 - ・年間の主な取り組み予定について
 - ・コンプライアンス推進計画の取り組み状況について
5. 各委員からの主なご意見等
 - コンプライアンス指導員研修とコンプライアンス・インストラクター養成研修を開催しているが、指導員とインストラクターの機能の違いは何か。
 - コンプライアンス指導員は、組織の管理者としてコンプライアンス・ミーティング等を主催し、部下職員の日常のコンプライアンス指導等を行う。コンプライアンス・インストラクターは、指導員と連携してコンプライアンス学習やコンプライアンス・ミーティング等の実施を補佐する。指導員及びインストラクターを育成することで、強固な指導体制を構築する。
 - 部署によっては、指導員とインストラクターの両方を兼ねている人もいるのか。
 - 職階ごとに、それぞれ役割を分けたいところであるが、人員の少ない部署は結果的に兼ねている場合もある。
 - 指導員研修等のアンケートで、管理職員以外の職員や若手職員への研修も充実させてほしいとの意見があるが、こういった意見の背景は何か。
 - 指導員研修等は管理職員等を対象としており、研修を受講した管理職員等が、それぞれの部署に持ち帰って部下職員に対して指導を行うこととなっているが、若手職員に対しても直接研修を実施してほしいとの要望を踏まえて、今後、若手職員を対象とした研修の開催についても検討していきたい。
なお、全職員を対象としたミーティングは年2回実施している。
 - リスク回避等マニュアルがあることで事前に確認して見直すことができると思うが、実際に起こってしまう前のマニュアルの参照頻度や実際の発生頻度、このリスクが一番高いといったこと等を把握しているのか。
 - マニュアルは、各部署において想定されるリスクを洗い出して作成したもので、セルフチェックシートによる自己点検を実施している。現時点で大きなリスクは発生しておらず、どのリスクの発生が一番高いか等の数値データはない。ただ、基本的には全て起こりうるリスクなので、担当部署以外にも共有しチェックすることで防止に努めている。

- 発注者綱紀保持マニュアルの改訂状況を次回説明願いたい。
 - 次回説明する。
- 内部監査は10月から12月にかけて実施するということだが、常設の期間ではなく、この期間だけ実施するということなのか。年間にかけて実施することはないのか。
 - 内部監査は、各事務所等を対象に年に1回実施しており、例年、10月から12月にかけて実施している。年間を通しての監査は実施していない。
- 内部監査の結果を、簡単な概要でも構わないので、次回の委員会で報告願いたい。
 - 次回報告する。
- 内部監査への意見であるが、監査を実効性があるものにするためには、監査官は兼任ではなくて専属の職員がいた方がいい。また、実施時期も定期ではなく抜き打ちでやる方がよいと思う。

以上。